
東方機械人

高尾

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方機械人

【Nコード】

N1039Z

【作者名】

高尾

【あらすじ】

注意：オリキャラが駄目な方は気を付けてください。

（前書き）

どうも高尾というものです。自分が考えたオリキャラで東方MX文々。ニユース という夜光沙羽という方が書いている小説に提供したクレアという体が機械でできた妖怪と森近霖之助との最初の邂逅を書いた短編です。

何故森近霖之助かは後書きの設定を見ていただけたらと。
文才の無い私ですので本当に短いです

無縁塚・・・それは幻想郷で再思の道を抜けその先にあり紫の桜が咲き誇り幽玄な美しさを見せる一方、ここは縁者無き者の墓場となっている。

その中で縁者無き者の多くは外の世界から迷い込んだものが多くそれが原因で結界に緩みが生じた。それ以来、ここは縁者無き者・・・いや、外の世界で不要なものの墓場と言っても過言ではない。なぜなら、外の世界から迷い込んだ人だけでなく使われなくなったものなども流れ着くようになったからだ。

さまざまな機械などが流れ着くそんな場所でそれらを回収し商品にする者もいたりする。

その者の名は森近霖之助という。そして、これはそんな彼と使われなくなったもの達の結晶が織りなす物語。

どうか私たちの子よ・・・どうか不要になり捨てられたもの達に救いを。

幻聴を聞いて目が覚めるとそこは美しく咲き誇る紫の桜以外特に目立ったものがなくゴミが乱雑としている場所だった。

しかし、生まれたばかりの彼女は桜と言う植物も紫という色も知らないで、美しいと思う感情も持っていない。

彼女が知っているのは、自分自身が生まれたばかりであるということと体から与えられる情報だけだ。

彼女は動けない。それは足が欠如しているからだ。なぜ、欠如したかわからない。ただ、足が片方ないという事実は分かる。

そんな動けない自分は何をすればいいのかと彼女は思考を巡らせる。

思考しても知識を持たない彼女には何の案思い浮かばない。しかし、ひとつ思い浮かんだものがあった。

『妖力を電力に変える程度の能力』

それを思い浮かんだとき、それが自分の能力だと理解できた。それが何故だかは分からない。自身の体に、自身の人工智能に、それはすぐに馴染んだのだ。

そして、それを彼女はすぐに行使しようとした。しかし、妖力というものが何なのか分からない。それがどのようなエネルギーなのかさっぱり知らない。でも、電力と言うものは分かる。それは自分の体を動かすために必要なエネルギーだと体が覚えていた。

妖力というものがなんなのか考えるために再び思考を巡らせる。答えはすぐに見つかった。

自分の中に何かのエネルギーが存在していたからだ。それを彼女は妖力だと仮定し能力を行使する。

バチツバチチチ！！！！

欠如している足の部分から電気が洩れ、青い光が走る。電力が供給され彼女の体から駆動音が鳴り始めるがそれもすぐに止む。体の中に溜めることができず、電気が外へ洩れているからだ。だから、動くことができない。

彼女は困った。動けなければ何もできないからだ。

ガサガサ

草をかき分け、何かが近づいてくる音が聞こえる。音がする方に

意識を向けると一つの熱源が感知できた。その姿からして体から与えられる情報の中の人間と呼ばれるものに近い。

「さっき、すごい音がしたけど・・・これは・・・」

草をかき分けて現れた一人の人間と呼ばれるものは自分の体をしばらくひどく驚いた様子で眺めた後、自分の体を抱えどこかへ向かって歩き出した。

あたりで咲き誇る紫の桜は二人を見守るかのようにただただ風に揺られていた。

(後書き)

クレア「今思イ出ストアレハ、俗ニ言ウオ、才姫様抱ツコトトトイ
イイウヤツデデデデデd:@f l s@m r w g]m]e@f v
t e w g「バチン！」プシュー

霖之助「おーい、クレア。少し頼みたいことがあるんだけど・・・
はあ、またか。まったくなんでこつも熱でショートするんだろうね。
また、にとりのところへ運ばないといけないのか」

- - - - -
- - - - -
- - - - -

大変下手な文章ですが見てくださってありがとうございます。
これがクレアの設定になります。

発展に取り残されたもの

クレア

種族：アンドロイドの妖怪 主な活動場所：人里のはずれ、香霖堂
能力：妖力を電力に変換する程度の能力（稼働に必要な分を常に
している）

身体が金属で出来ている機械の人型妖怪。アンドロイドみたいなもの。

無縁塚に打ち捨てられていた機械から生まれた新参の妖怪。妖力は
それほど多いわけではない。

ときどきショートする。その度にとりに手入れしてもらおう。喋る
とき、ひらがなが全てカタカナになる。無縁塚で霖之助に拾われて
以来香霖堂で働いている。主に捨てられて壊れた機械類のものを改

造しては売り物に変えている。時にはにとりとも協力する。魔理沙と霖之助のことでよく喧嘩する。あと、朱鷺子とも喧嘩をする。

電気が身体を動かすエネルギーとなるが身体構造は、かなり人間に近い。というか、人間よりスペックはかなり高い。電力が切れても思考することや喋ること、資格を使うことは可能。

にとりに体を改造されることがあり、彼女が目を光らせて工具を持つてきたときにはフル発電フル稼働で逃げる。

見た目は、ネギまの茶々丸のようなもの。香霖堂では割烹着姿が多い。髪の色などは、黒ずんだ灰色でストレート。

セリフ：

「霖之助様。夕御飯が出来上がりマシタガ……」

「魔理沙様デアッテモコレダケハ譲レマセン」

「キカイデアル私ハ、ドウスレバ？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1039z/>

東方機械人

2011年12月3日22時50分発行